



新百合ヶ丘自治会

活動概要



新百合ヶ丘自治会 自主防災本部長 樋口 誠

✿ 新百合ヶ丘自治会について

- ✿ 新百合ヶ丘自治会は麻生区の、昭和40年代後半に開発された住宅地域の自治会
- ✿ 世帯数は約1,000世帯、自治会加入率はほぼ100%という、地域の繋がりの強い自治会です。



新百合ヶ丘自治会の防災活動

災害時の組織づくり

階層別の防災訓練

近所で助け合う仕組みづくり

✿ 災害時の組織づくり

🐦 平常時と災害時のリーダーを分ける。

- ・自治会長が災害時も指揮を執ることには限界がある。

🐦 継続性を重視

- ・1年交代の役員では防災活動の継続性を維持できない。

🐦 役割分担の明確化

- ・防災キャプテン、避難所キャプテンなど、それぞれの役割を明確にし、組織を再構築した。※詳細は次ページ



災害時に実行性のある組織へ

自主防災組織図（非常時）

本部長（役員）、副本部長（自治会長）

防災キャプテン（役員）

情報局

- ・ **防災副キャプテンのグループ（凄年の会）**
防災キャプテン不在時には順次その業務を担当、情報局長としても順次担当、必要に応じ現場活動にも参加
- ・ **自治会役員**
情報班、経理班、避難援護班、給食班、給水班、防犯班、総務班など予め分担を定めて担当
- ・ **民生委員、児童委員**
要援護者情報を活用し、本部の救援活動に参加

公園グループ

- ・ **自治会班長、防災応援団、近隣の会員で構成**
- ・ **道路を挟んだ家によって班を構成**
 - 現場：非常時の防災活動の実務
 - 実務：道路消火栓・防火水槽を使用した初期消火、被災状況調査、救出・救護、避難誘導、防災倉庫管理、その他非常時対応

避難所キャプテン（役員）

- ・ **避難所運営会議では議長または副議長として活動する。**

避難所グループ

- ・ **避難所運営会議の一員としての支援活動を行う。**
 - 現場：避難所運営の実務（王禅寺中央小学校体育館）
 - 学校関係者：避難所運営会議と学校との調整
 - 行政担当者：麻生区本部（行政）その他との連絡

階層別の防災訓練

一般住民向け防災訓練

- ・誰もが気軽に参加できる訓練（起震車や炊き出し訓練等）

防災応援団向け防災訓練

- ・実践的な訓練（防火水槽を利用した放水訓練、ロープワーク、路上消火栓の開閉訓練等）

要援護者支援に関する防災訓練

- ・要援護者支援に資する実践的な訓練（車いすの取扱い、A E D 訓練、心肺蘇生法等）



役割に応じて必要な知識を習得

✿ 近所で助け合う仕組みづくり

🐦 災害時の要援護者支援

- ・ 要援護者ごとに、あらかじめ支援者を決めておく。
- ・ 要援護者の家の「向こう3軒両隣」が支援者となる。

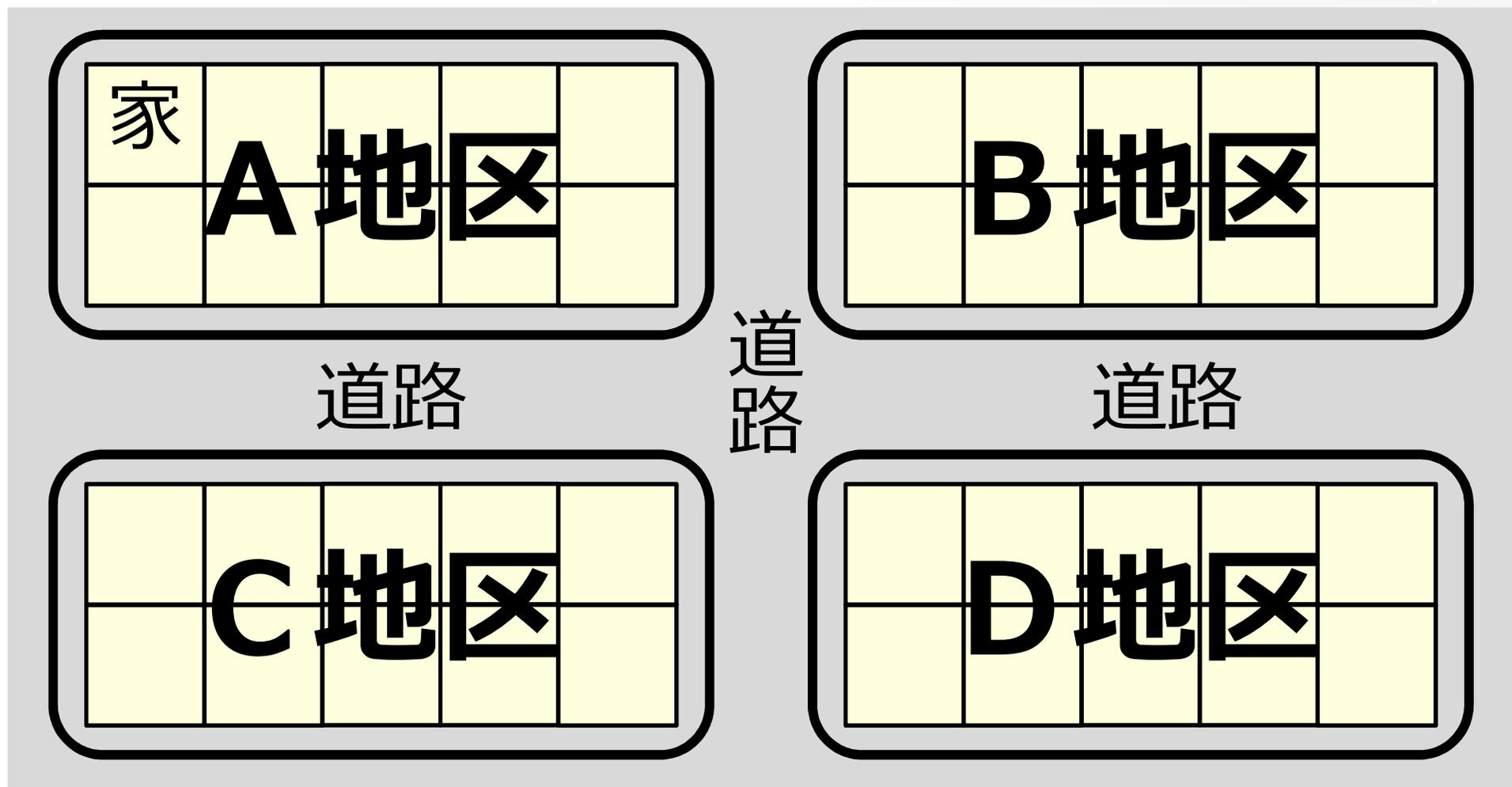
🐦 地区割りの工夫

- ・ 道路を挟んだ家同士の方が、普段からの交流が多いことから、道路を境界線にした班編成から、道路を挟んだ班編成への変更を行った。



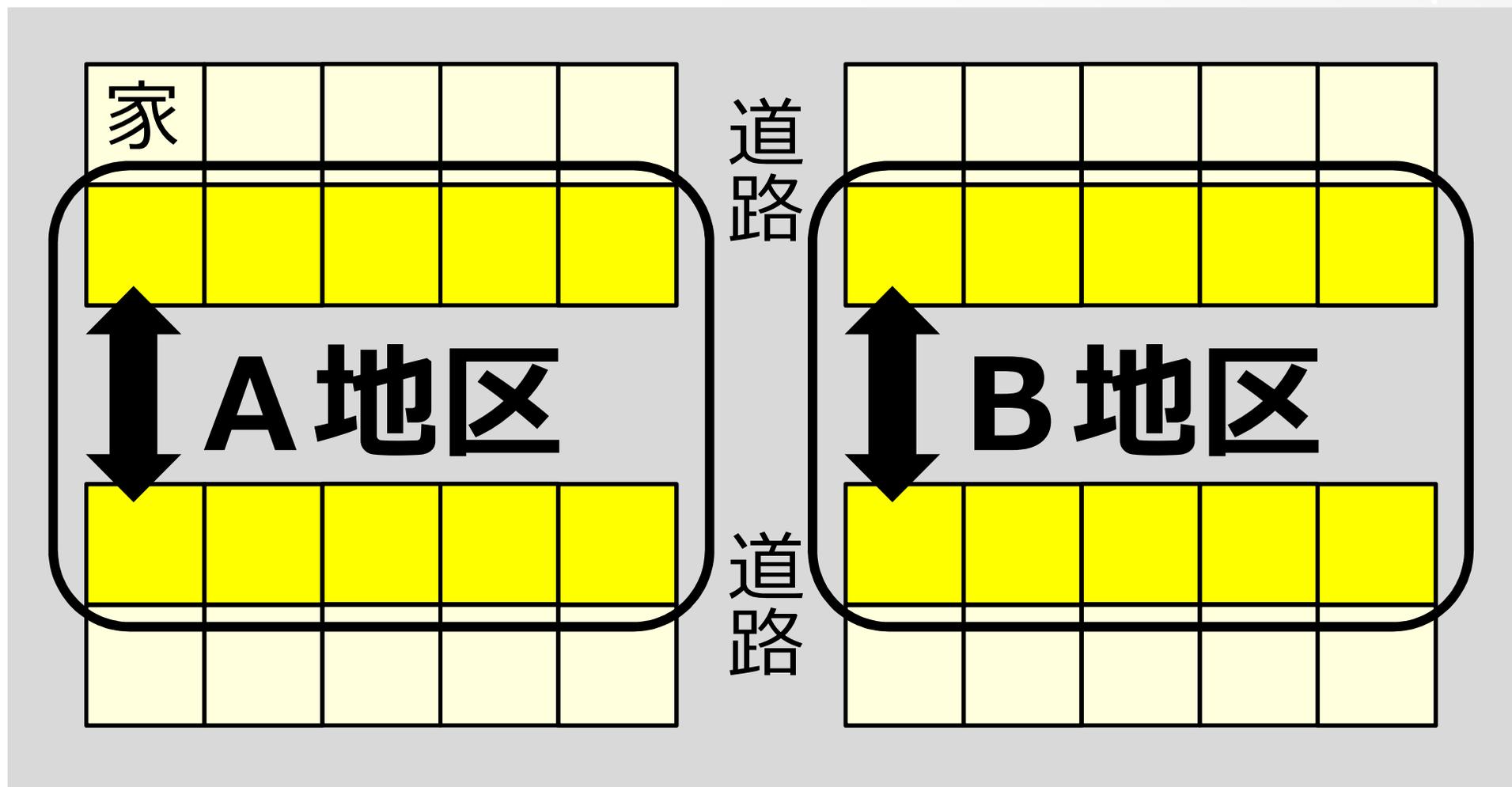
日頃からの近所付き合いを大切にする

地区割りの工夫 《従来》



従来、道路を境界として地区割りを行っていた。

地区割りの工夫 《変更後》



道路を挟んで向かい合う家の方が日頃からの交流が多いため、災害時の助け合いにつながりやすい。

✿ 近所で助け合う仕組みづくり

🐦 安否確認タオルの活用

- ・災害時に無事だった家庭が、玄関先に黄色い物を掲示することで、ご近所同士が素早くその安否を把握することができる。
- ・今年度から、黄色いタオルを配布、試行的に安否確認訓練を実施した。



活動のポイント

地域のイベントを大切にする。

- ・ 親世代（30～50代）への積極的な声かけを行う。
- ・ イベント（夏祭り、子ども餅つき大会、美化活動など）も訓練の一環

継続的に携わる人を増やしていく。

- ・ 新しい人を巻き込み、皆で仕事を分担する。
- ・ アンケート調査を通して、潜在的な協力者の掘り起こしや防災広報の実施が可能

✿ アンケートの内容 《参考》

🐦 各家庭の対策状況について

- ・家具転倒防止、耐震診断などの項目ごとに、地震への対策状況について調査

🐦 各家庭の備蓄状況について

- ・水、食料、トイレ等の項目ごとに各家庭で何日分の備蓄を準備しているか調査

🐦 自主防災組織への参加意識について

- ・地域の防災活動に協力する意思を持っているが、活動はしていない、潜在的な担い手を掘り起こす。